



MITINAS、インドネシア・マジャレンカ県と MOU を締結

循環型都市の実現に向け、環境・ドローン・エネルギー分野で連携

株式会社 MITINAS は、インドネシア共和国・西ジャワ州マジャレンカ県との MOU を締結し、地域課題の解決と持続可能な循環型都市の実現に向けた連携体制を構築しました。

MITINAS はこれまで、マジャレンカ県において、廃棄物問題の解決を起点とした Clean City Project を推進し、行政機関、大学、民間企業などと連携しながら、廃棄物資源化、ドローン活用、エネルギー利用、脱炭素型インフラの構築に向けた取り組みを進めてきました。

社内事業資料においても、マジャレンカ県政府、環境局（DLH）、POLMAN Bandung 等との MOU 締結後、循環型都市形成に向けた協議および実証準備を進めていることを位置付けています。

廃棄物を「資源」に変える循環型都市へ

マジャレンカ県との取り組みでは、廃棄物を単に収集・処分するのではなく、新たな資源やエネルギーとして地域内で循環させる仕組みの構築を目指しています。

主な検討分野として、

- BSF（Black Soldier Fly）を活用した有機廃棄物の資源化
- 廃棄物処理・資源回収技術
- 廃棄物由来エネルギーの活用
- ドローンによる物流・環境モニタリング
- AI・IoT を活用したデータ管理
- GHG 排出削減の定量化
- JCM（二国間クレジット制度）を見据えた脱炭素事業

などを進めています。

MITINAS では、廃棄物資源化とドローンを組み合わせた地域モデルについて、地方自治体や大学、民間企業と連携した実証事業を進めています。

行政・大学・企業が連携する実証フィールド

本プロジェクトでは、MITINAS だけで技術を導入するのではなく、マジャレンカ県政府、環境局、大学、地域企業などがそれぞれの役割を持って参加する連携モデルを構築していきます。

行政による地域調整、大学との技術研究・人材育成、民間企業による技術開発・事業化を組み合わせることで、研究段階で終わらない社会実装を目指します。

マジャレンカ県では、廃棄物資源化や脱炭素型インフラ導入の可能性調査とともに、実証・事業化に向けた準備を継続しています。

マジャレンカから ASEAN へ

MITINAS は、マジャレンカ県を一つのモデル地域として、

廃棄物 → 資源化 → エネルギー → ドローン → データ → 脱炭素

を一体化した新しい地域インフラの構築を目指します。

現地で得られる実証データや運用ノウハウを蓄積し、将来的にはインドネシア国内の他地域、さらに ASEAN 各国への展開につなげていきます。

今回の MOU 締結を、単なる技術協力にとどめず、環境・産業・教育・雇用を地域の中で循環させる持続可能な都市モデルの実現につなげていきます。